

# トピックス

## C/Sとイントラネット技術を利用した社内開発

当社では、ここ数年の間にホストコンピュータ主導型システムからクライアント/サーバ型（以下C/S型）システム、イントラネット型システムと、業務システムの形態を変化させてきました。

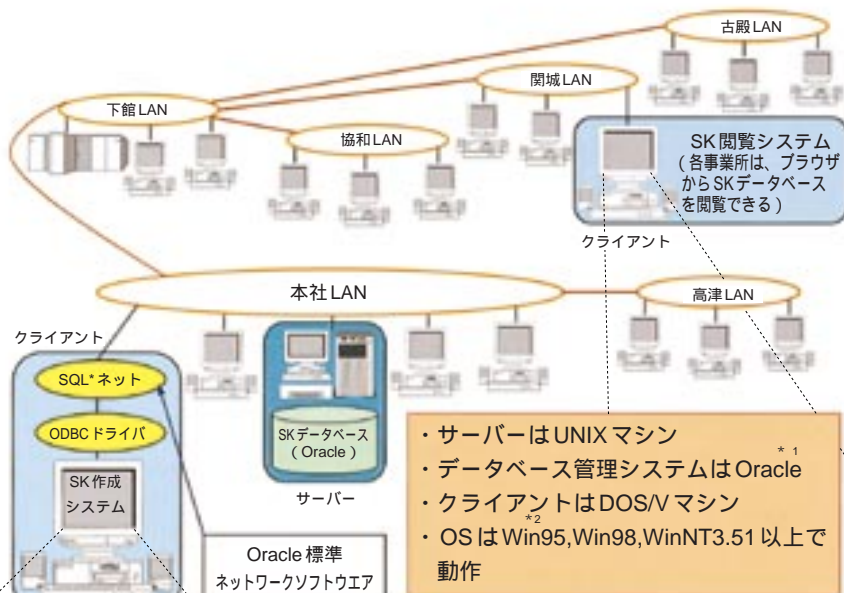
その中の一つであるSK（部品表）システムは、C/S型とイントラネット型の長所を取り入れた社内開発システムとして、1998年3月に運用を開始いたしました。

設計部門が使用するシステムは、頻繁なデータ更新や各種データベース連携に伴う複雑な処理が要求されるため、C/S型として構築し、設計者はこのシステムによ

って部品表情報を本社サーバへ登録します。

一方、工場部門のシステムは、部品表情報の閲覧や印刷のみが要求条件となるため、クライアント側に専用ソフトのインストールを必要としないイントラネット型として構築し、不特定多数のクライアントから、ブラウザを利用した部品表閲覧を可能としています。

また、電気部品データベースとの連携により、製造中止部品や使用禁止部品の使用を抑制するなど、現在でもさまざまな面で進化を続けています。



システム構成図



SK作成システム画面例



SK閲覧システム画面例